

人口減少に立ち向かう！ 「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました

問合せ 市役所都市経営課企画担当 (TEL)31-4502

このたび、人口の現状と将来の展望を示す「人口ビジョン」と、それを踏まえた対策として、今後5年間の目標や施策の基本的な方向、具体的な施策をまとめた「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「総合戦略」)を策定しましたので、それぞれの概要を紹介します。

1. 人口ビジョンの概要 (釧路市の人口の現状と将来の展望)

①釧路市の人口減少の特徴と影響

■釧路市の人口は、昭和55(1980)年の22万7,234人をピークに減少を続けており、(一社)北海道総合研究調査会の試算によると、25年後の平成52(2040)年には約10万6,000人と、大幅に減少すると推計されています。

■人口減の主な要因としては、若い世代の転出が特に大きく、大学進学や卒業後の就職に伴う転出の影響が大きいと考えられます。

■出生率の低下等による自然減よりも、転出等による社会減の影響度がより大きくなっています。

このまま人口減少が進むと、さまざまな影響が出てきます

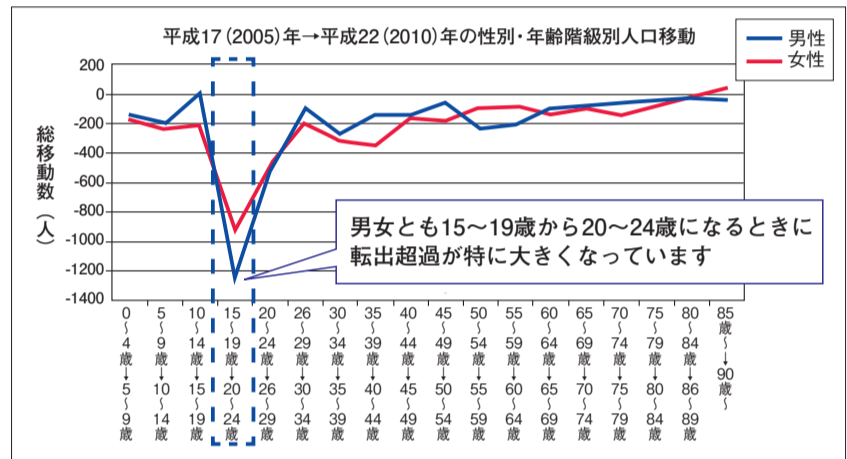
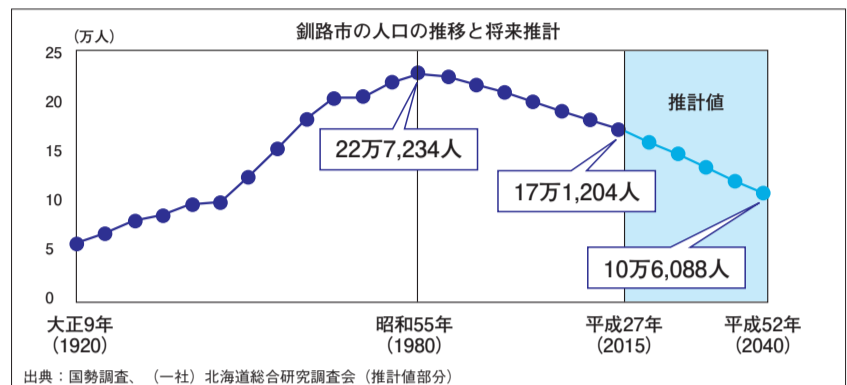


少子化の加速

都市機能の縮小・悪化

次世代の担い手の減少

雇用・経済活動の縮小

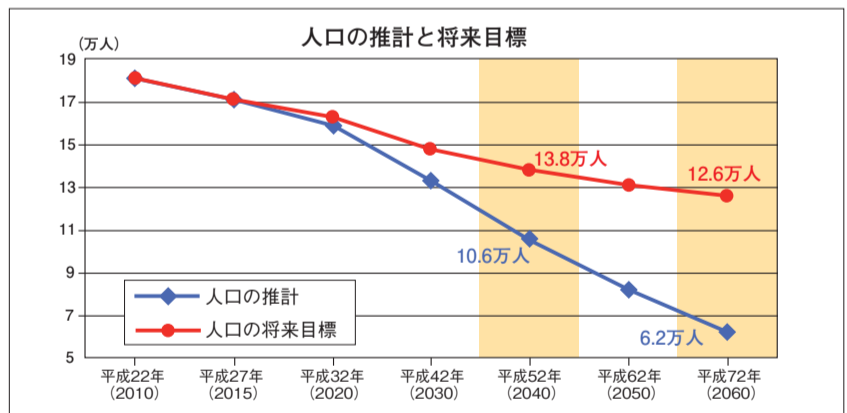


②人口の将来展望

■国の長期ビジョンと北海道の人口ビジョンを勘案し、比較検討した上で、人口規模等を設定しました。

人口の将来目標 平成52(2040)年に13万8,000人
平成72(2060)年に12万6,000人

■本市の人口減少は、自然減よりも転出などによる社会減の影響が大きいことから、「社会減」に歯止めをかけ、親になる世代に釧路に定着していただくことが最も重要であり、若い世代の定着を図るため、総合戦略に掲げる施策を展開していきます。



市長から皆さんにお伝えしたい vol.44

「まち・ひと・しごと創生」は社会構造の大転換

釧路市では、人口減少が進む中であっても、将来にわたって地域の活力を維持するため、産業界や大学関係者、金融機関など、各分野の皆さまからご意見をいただきながら、「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

このまま何も手を打たなければ、市の人口は平成52(2040)年には約10万6,000人まで減少すると推計されているところ、市では特に「わかもの」や「女性」の「働きたい」「子どもを生み育てたい」などの希望をかなえるためのさまざまな対策を講じることにより、推計よりも3万2,000人多い13万8,000人を維持するという将来目標を設定しました。

私は、「まち・ひと・しごと創生」の取り組みは、これまで地方が中央へと人材を輩出してきた日本の社会構造を転換させるものだと思います。

その道りは容易なものではありませんが、目標に向かって地域全体が一丸となって着実に取り組んでいくことが大切です。

「未来への『希望』輝く ひがし北海道の拠点・くしろ」という都市像を皆さまと共有し、協働・役割分担しながら事業を進めていけるよう、総合戦略の内容の周知に努めてまいります。

釧路市長 蝦名大也